佃月島で観察できる野鳥図鑑

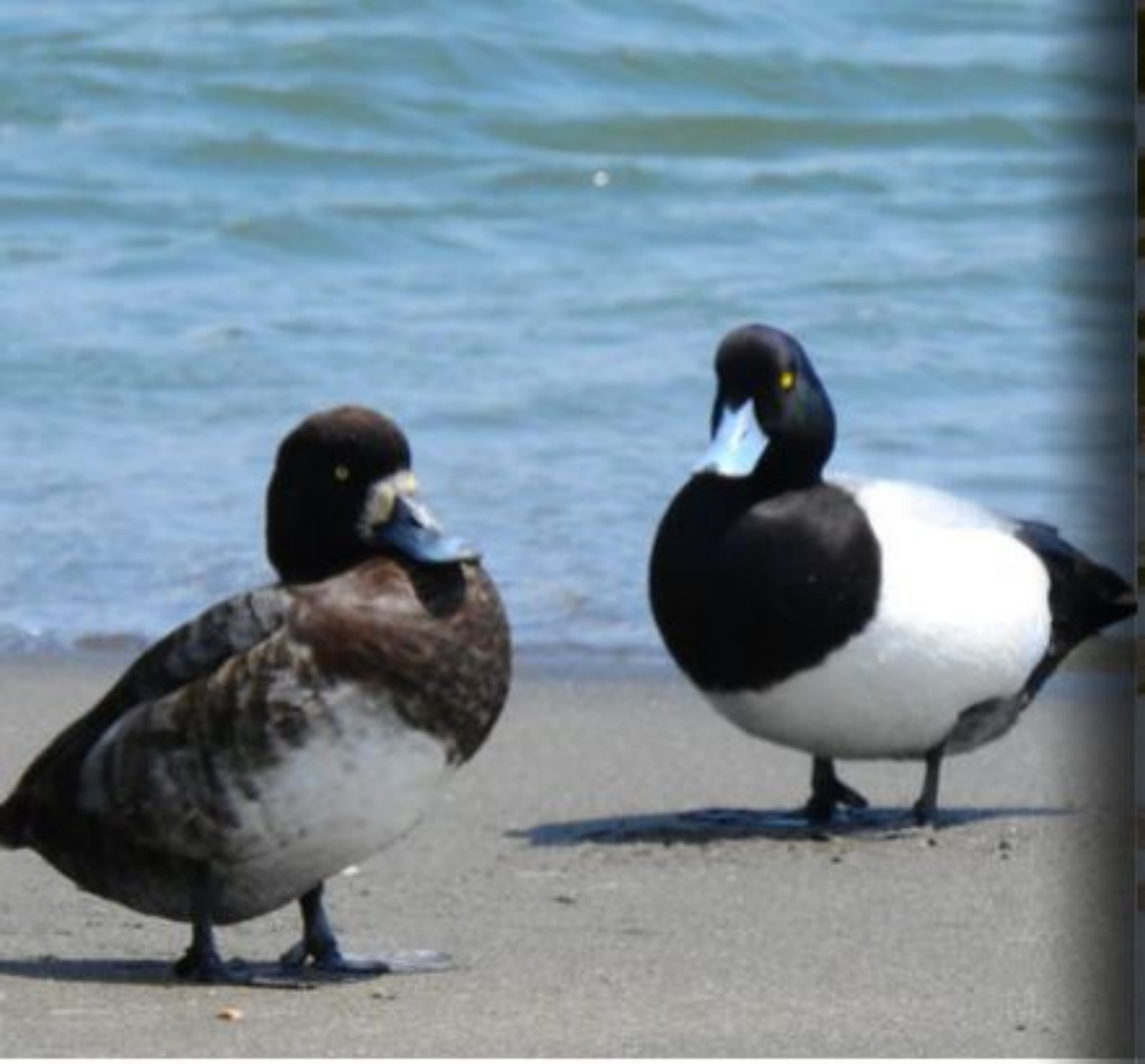
佃月島新聞

佃月島で観察できる野鳥図鑑

佃月島新聞

【オナガガモ】冬鳥。名前の通り尾が長く美しいカモです。水面にクチバシをつけて、藻、水草、種などを、そして、お尻だしスタイルで、水底の貝なども食べます。オス（手前）メス（奥）が仲良く行動していることも多いです。

【マガモ】冬鳥。黄色いクチバシと緑色の頭（オス）で、すぐ見分けがつきます。アヒルは、このマガモからをつくったそうで、DNAは同じらしい。そういえば、ドナルドダック（アヒル）も、黄色いクチバシでしたね。



【スズガモ】冬鳥。海鳥。佃・月島あたりは、海水と淡水が混ざりあう汽水域のためなのか、近年よく来るようになりました。オス（右）の頭は、メタリックな緑色に見える場合もあります。右ページのキンクロハジロとは親戚です。

【キンクロハジロ】冬鳥。目が金色、羽が黒なので、キンクロハジロ。オス（手前）メスともに寝癖のような冠羽があります。潜水が得意で、水底の貝などが好物らしい。メスはとくにスズガモとの見分けが難しいです。

【ホシハジロ】冬鳥。オス（下）は、背中からおなかまでが真っ白で、頭が茶色と、特徴的なので遠くからでも見分けられます。ほっぺがふくらんでいるところがチャームポイント。メスはジミですが、かわいい顔をしていますね。

【ヒドリガモ】冬鳥。オス（右）の頭がモヒカンカットのように、茶色と白に色分けされているのが特徴。漢字で書くと、緋鳥鴨。オスの顔が緋色に見えたのかな。陸上に上がって草を食べていることもありますよ。

【ヨシガモ】冬鳥。写真では分かりづらいですが、オス（下）は、頭の後ろだけちょっと長髪。細かい羽の模様がとても美しいカモです。メス（上）は他のカモ同様、ジミ。皇居のお濠には、冬場、多くのヨシガモが訪れています。

【コガモ】冬鳥。漢字で書くと、小鴨。日本最小サイズのカモです。オス（下）は、覆面レスラーみたい。メス（上）にも少しだけ見えている緑色の羽が、コガモのアイデンティティか。それとクチバシに見える黄色部分にも注目。

【カルガモ】留鳥。カルガモは、5月から9月にかけて、子育ての季節になります。雛たちは、孵化してすぐに泳げるし餌をとれる。だから、カルガモのお母さんは、雛たちのトレーニングとガードが主な仕事になってます。

【ユリカモメ】冬鳥。都民の鳥。クチバシと足が赤いのが大きな特徴の小さなカモメです。ユリカモメが渡り鳥だということを、知らない人が意外に多いらしい。シベリアなど北方へ渡る４月ごろ顔が真っ黒になります（夏羽）。

【ウミネコ】留鳥。「ミャーミャー」と猫のように鳴くからウミネコ。黄色いクチバシと足が特徴です。それと、目が怖い。他のカモメはほとんど冬鳥なので、夏にカモメを見たら、ほぼウミネコだと思って間違いありません。

【セグロカモメ】冬鳥。ウミネコより大きいカモメ。クチバシの先の赤い点が、下クチバシだけについているので（ウミネコは上下）、見分けられます。それと陸上にいるときは、足の色に注目。セグロカモメはピンク色です。

【カワウ】留鳥。羽のメンテナンス・防水用に、多くの鳥は「尾腺油」というオイルを出していて、これを全身に塗りひろげています。カワウにはこの機能がないため、羽を広げて乾かす、おなじみのスタイルになるのです。

【コサギ】留鳥。いわゆる「白鷺」の一種で、名前のとおりダイサギより、かなり小型です。ダイサギとの見分け方は、足の黄色い指。この黄色を確認できたら、「コサギ！」と断定していただいて、ほぼ間違いありません。

【ダイサギ】留鳥？　夏にいるダイサギは亜種チュウダイサギ（夏鳥）で、日本で繁殖。冬にいるダイサギは亜種ダイサギ（冬鳥）。いつもいることはいるけど、入れ替わっている、という話がでてきて、いますごく混乱しています。

【ゴイサギ】留鳥。漢字で書くと、五位鷺。醍醐天皇が「捕らえよ」と命じた、と知ったこの鳥は、自ら天皇のもとへ。そこで「あっぱれ」となり、「五位」の位を授かったのだとさ。青と白の羽、赤い目、黄色い足が特徴です。

【アオサギ】留鳥。アオサギはでかい。それに頭のてっぺんなどに紺色の模様がある。なので、遠くから見ていても、判別しやすい鳥です。外敵に襲われることもないのでしょう。近くに人がいてもあまり動じません。

【カンムリカイツブリ】冬鳥。この写真は４月ごろ、夏羽に生え変わったところ。冬場は全体的に白い色です。シルエットだけ見てカワウ？と思っていて、よく見たら、カンムリさんだ！ということもよくあります。

【カイツブリ】留鳥。都内の大きな公園の池にはだいたいいるポピュラーな鳥ですが、なかなか来てくれません。小さいくせに悪人顔。ただ、生まれたばかりの雛を背中におんぶして移動する姿は、とってもかわいいです。

【カンムリカイツブリ】冬鳥。この写真は４月ごろ、夏羽に生え変わったところ。冬羽は顔の部分が白です（右上）。シルエットだけ見てカワウ？　と思っていて、よく見たら、カンムリさんだ！ ということもよくあります。

【カイツブリ】留鳥。都内の大きな公園の池にはだいたいいるポピュラーな鳥ですが、なかなか来てくれません。小さいくせに悪人顔。ただ、生まれたばかりの雛を背中におんぶして移動する姿は、とってもかわいいです。

【イソシギ】留鳥。シギの仲間としては珍しく、一年中います。白い羽が上に切れ込んでいるところが特徴的。昆虫や小さな魚などを食べています。川沿いのフェンスの下などにいることが多いので見つけてください。

【キョウジョシギ（左）】【キアシシギ（右）】ともに旅鳥。春秋だけちょこっと日本に立ち寄る２種です。春は５月中旬ごろ来て、夏には北へ旅立って繁殖。幼鳥も加わって、秋にまた日本に飛来し、越冬地へ向かいます。

【オオバン】留鳥。オオバンは図鑑では留鳥と表記されていますが、佃・月島では冬場のみ見られます。松戸あたりでは繁殖しているのに、と悔しい思いです。クイナ科の鳥で、沖縄にいるヤンバルクイナの親戚です。

【ハクセキレイ】留鳥。チチチと鳴きながら飛ぶので、声だけでも判別できる鳥。パタパタっとはばたいて、スッと落ちる上下動のある飛び方も特徴です。全体に黒く見えてもホッペが白いのはハクセキレイですよ。

【ツグミ】冬鳥。近年は、佃・月島でもよく見られるようになりました。地面を走り回って虫を捕らえるスタイル。たとえば石川島公園の土手などによく来ます。夏は、シベリア東部などに渡って繁殖します。

【イソヒヨドリ】留鳥。この写真はメス。ヒヨドリ(p35)に似ているので、この名がついていますが、実は、ツグミなどと同じヒタキ科の鳥。水辺で虫やヤモリ、水生生物などを食べています。オスは、表紙の鳥です。

【ジョウビタキのオス】冬鳥。石川島公園でジョウビタキを見つけたときは、ビックリしました。なにしろ東京で見られる冬のスター鳥ですから。たぶん大きな公園を巡る途中で立ち寄っているのだと思います。

【ジョウビタキのメス】冬鳥。メスは、地味なので見落としがちですが、羽の部分の白斑やオレンジ色の尾羽がオスと共通です。低木にとまっていて、地上の虫を見つけるとサッと舞い降りとらえています。

【ツバメ】夏鳥。夏に日本にきて繁殖し、秋に南へもどるのが夏鳥。しかし、ツバメは、年々数が減っているようです。フン害を嫌って住民が巣を壊してしまうためなのかな。上手に共存できれば翌年も来てくれるのですが。

【メジロ】留鳥。スズメより小さな鳥。甘いものが大好きです。「ピリリリリ」と高音で鳴く声を覚えると見つけやすい。ウグイスと勘違いする方もいますが、こちらがメジロ。ウグイスは、茶色っぽいジミな鳥です。

【オナガ】留鳥。名前の通り尾が長く、美しいブルーが印象的です。ところが、鳴き声は、「ギョイ～」といまいち。実は、カラス科の鳥です。同じカラス科の鳥、カササギに、いま少しずつ活動領域を奪われています。

【ハシブトガラス】留鳥。東京で見られるカラスは、ほぼハシブトガラスです。注意してほしいのは、５月ごろの繁殖期。巣に近づくと攻撃される危険があります。兄弟種のハシボソガラスは、高原地域に生息しています。

【シジュウカラ】留鳥。主に昆虫や種を食べる鳥。ほっぺの白がかわいくて、背中の緑が美しい。春にはオスが、木の高いところで、「ツーピーツピツピ」などと、かすれ声でさえずります。見つけてみてください。

最後は、最も身近な鳥。【スズメ】（左上）【ヒヨドリ】（右上）【キジバト】（左下）【ムクドリ】（右下）。よく見る灰色のハトはドバトで、飼っていたレース鳩が逃げて増えたものらしいです。

写真・文：藤田 明

佃月島で観察できる野鳥図鑑

佃月島新聞

SHIMAUMA PRINT
https://www.n-pri.jp/

XXXXXXXXXXXXXX